

女性医師が活躍するフィールド

「ピンチはチャンス」

飽くなき好奇心と探究心、前向きな気持ちで、
心臓血管外科医として邁進していく。

心臓手術のクリエイティビティとダイナミックさ、そして手術によって劇的に症状が改善する患者さんを目の当たりにして、2000年に心臓外科医を志し、東京女子医大の心臓血管外科(当時の心研外科)に入局しました。入局当時の勤務状況は壮絶とも言えるものでしたが、「一度決意したからには最低10年は歯を食いしばってでも続けよう、それでダメなら諦めよう」と思い、ご指導いただいた素晴らしい先輩方のおかげで2008年に

は心臓血管外科専門医を取得しました(非常に悔しいですが症例数不足で維持できず、現在は失効しました)。その後、結婚・出産というチャンスに恵まれましたが、育児と心臓血管外科医の両立に一度挫折いたしました。しかし山崎健二教授のご配慮で常勤の短時間勤務枠で2年間働き、現在はフルタイムの常勤で当直(月4~5回)も緊急対応もしております。

専門は先天性心疾患です。出産・育児

の経験から、先天性心疾患の子供を持つご家族の不安を少しでも和らげられたらと思い「こどもの心臓病と手術」という患者さんのご家族向けの解説本を出版しました。最近では重症心不全に対する補助人工心臓治療にも取り組んでいます。育児・家事と仕事の両立に関しては「ロールモデル」と言うほど手本になるようなことはやっていませんが、自分が悩んだり困ったりした経験や、それを乗り越えて解決した経験は、出し惜しみなく後輩

に伝えたいと思っております。また、男女問わず外科医の労働環境改善、特に「手術」という外科医のスペシャリティが存分に研鑽できる「魅力ある外科」の労働環境を目指し、昨今の「若手の外科医離れ」対策として、自身の経験や女性の視点を活かしたいと思っています。

「ピンチはチャンス」をモットーに、飽くなき好奇心と探究心、前向きな気持ちで、心臓血管外科医としてこれからも邁進していく所存です。



立石 実

(東京女子医科大学 心臓血管外科)

卒業大学：熊本大学

経歴：2000年 東京女子医科大学 日本心臓血管研究所 外科 入局

その後、佐賀病院、聖隷浜松病院、富山県立中央病院、京都府立医科大学

に出向。2008年に育児を志す。その後一旦東京女子医科大学 心臓血管

外科で非常勤、短時間勤務を経て、2013年4月から助教として勤務。

趣味：読書、ピアノ演奏、芸術鑑賞、スポーツ観戦(野球など)、最近では

家族でローラースケート(初心者)

好きな言葉：「Stay Hungry, Stay Foolish.」[守破離]